

西側は、ウクライナの兵器が闇市場に流れていることを 知っている

——シーモア・ハーシュ

<https://www.rt.com/russia/575218-ukraine-weapons-cbs-hersh/>

RT

April 23, 2023

キエフに供与された兵器が、ポーランド、ルーマニアなど多くの国々に大量に流れていることを、このベテラン・ジャーナリストが指摘。

西側の供与した兵器が、ウクライナの司令官たちによって、ポーランドやルーマニアなど多くの国々に、横流しされていると、著名な米ジャーナリスト Seymour Hersh は主張している。

このピューリツァー受賞記者は、彼のプログラム“Going Underground”について Afshin Rattansi に語りながら、行方不明の兵器が噂されているように、闇マーケット取引が行われていることを、西側は知っており、アメリカのメディアさえこれを報道していると言った。

ハーシュは、彼のデータによれば、昨年2月、キエフ・モスクワ間に紛争が起こると、ほとんど直ちに、「ポーランド、ルーマニアなど国境をもつ国々に、我々 [アメリカとその同盟国] が戦争のためにウクライナに送った兵器が、大量に密売されていた」と主張した。

「しばしばそれは将軍でなく、大佐級の人々だが、彼らは兵器を供与されると、これを個人的に闇マーケットで売り捌いていたのだ」と彼は説明した。

ハーシュは、昨年、西側で懸念されていたのは、ウクライナに送られた兵器の中には、スティンガーという肩に乗せて発射するミサイルがあり、これは「かなりの高さの飛行機を打ち落とす」のに使えることだと言った。

西側の供与する兵器で、ブラック・マーケットに売られるものについては、「CBS はそれについて物語を書いたのだが、それらは強制回収されたのだ」とハーシュは言った。



関連ニュース：「闇ネットで提供されている、ウクライナに供与された西側の兵器——RT 調査」

なぜこの記事が強制回収されたかを訊ねられると、ハーシュは、メディアはアメリカ政府支持のスタンスを取っており、「我々はウクライナ側に立っていて、みんなロシアを憎んでいる」と言っているのだ、と説明した。

ハーシュはおそらく、昨年 8 月に CBS が放映したドキュメンタリー “Arming Ukraine” (ウクライナの武装) のことを言っている。このフィルムの宣伝には、ウクライナ支持の NGO、Blue-Yellow の創始者 Jonas Ohman の、「軍事援助の 30% しか前線には届いていない」という発言が含まれていたが、これは削除され、ドキュメンタリー自体とそれに伴う物語は残された。

ロシアの高官たちは、あらゆる機会に、西側の供与する兵器がウクライナの外部へ流され、それによって、地球のあらゆる他の地域の安全保障が、悪化していることを警告してきた。

「NATO のキエフ政権向けの軍事物資は、中東、中央アフリカ、東南アジアの、テロリストや過激派、犯罪グループの手に渡っている」と、ロシア外務省報道官マリア・ザハロワは、5 月に警告した。その当時、彼女の試算では、闇マーケットの収益は、月に 10 億ドルだった。

昨年夏の RT による調査でも、いかに西側によるキエフへのさまざまな供与兵器が、闇のネットで売られているかを示している。ジャーナリストたちは、アメリカ製のカミカゼ・ドローンの、密販売者との購入交渉が、迅速に可能であることを知った。しかし、販売者が本当にその武器のストックをもっているかどうかは、記者たちが購入を完了しなかったので、確認できなかった。

関連記事：フィンランドの犯罪者たちが、ウクライナから武器を手に入れる——警察

シーモア・ハーシュとの Going Underground インタビューの完全版が、月曜日、RT で放映される。

[訳者 Greatchain 注]

このシーモア・ハーシュの貴重な警告は、何を意味するか？ それは、ゼレンスキー政府を援助してはならない、このような輩とは戦わなければ、我々自身の身が危険であることを意味する。この暴露は、「不都合な真実」を温情で隠してやろうというようなレベルを、通り越した話である。現ウクライナは、まともに機能する政府ではない。明かに自分の利益しか考えていない政府である。それだけでなく、外国から供与された兵器を、闇市を通じて、大量に売り捌いて私腹を肥やすということは、ここで言われているように、その分だけ、世界中を危険に曝すということである。ゼレンスキー政権のやっていることは、よく言われる「腐敗」というような、生易しいものではない。

もしどこであれ、他所の国が危ないから援助すべきだと言うなら、その国が自国民をどう扱っているかを、見極めてからにしなければならない。ただ「ロシアを滅ぼしてくれさえすれば、後はどうでもいい」というような、横着な態度を取るなら、我々自身に大きな禍が及ぶことを考えねばならない。わが国は、バイデン政権という犯罪政権と、運命を共にすることを選んだ。その上、ウクライナ政権という悪友を自ら選んだ。少し調べればすぐにわかる事実を、調べもせず選んだ。その付けは我々国民に回ってきている。それは金銭だけの問題ではない。次々に起こる、欧米並みの悪質な犯罪が、この墮落した悪友たちの影響によるものでないと、誰が言うことができるか？